

教科目名 哲学特論 (Special Lecture on Philosophy)

専攻名・学年 : 全専攻2年 (教育プログラム 第4学年 科目)

単位数など : 必修 2単位 (前期1コマ, 学習保証時間 22.5時間)

担当教員 : 堀 栄造

授業の概要			
現代哲学の主潮流の一つを成すドイツの哲学者エドムント・フッサールの創始した現象学の学問的方法論である現象学的還元が、どのように着想され、どのような構造をもち、どのような意義をもつのかを学ぶ。授業全般を通じて、質疑応答などを通して相互に発言し合う機会を多く設け、活発な議論の展開となるように努める。			
達成目標と評価方法		大分高専目標(A1), JABEE 目標(a)	
(1) 学問的方法論は学問にとって生命線とも言うべきものである。フッサールの現象学の学問的方法論の形成を学ぶことによって、学問にとっての方法論の意義や重要性を理解する。(定期試験)			
(2) 哲学的文章を通して西洋的思考および西洋の文化に直接接し、地球的視点から多面的に物事を考える力を身に付ける。(定期試験)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	心理学主義的立場	心理学主義的立場について理解できる	【理解の度合い】
2	反心理学主義的心理学	現象学的イデア学について理解できる	
3	反心理学主義的イデア学	還元思想の萌芽の生成について理解できる	
4	現象学的イデア学	実在的次元からの脱却の萌芽について理解できる	
5	還元思想の萌芽の生成	現象学的反省の可能性について理解できる	
6	実在的次元からの脱却の萌芽	現象学的反省の可能性について理解できる	
7	現象学的反省の可能性	現象学的反省の可能性について理解できる	
8	前期中間試験		【試験の点数】 点
9	前期中間試験の解答と解説	現象学的還元の着想について理解できる	【理解の度合い】
10	空想における反省	現象学的統覚について理解できる	
11	現象学的還元の着想	現象学的エポケーの着想について理解できる	
12	現象学的統覚	現象学的エポケーの着想について理解できる	
13	反省領域全体の非顕在化	反省領域全体の非顕在化について理解できる	
14	志向的構成と存在的現象	反省領域全体の非顕在化について理解できる	
15	前期期末試験		【試験の点数】 点
	前期期末試験の解答と解説		
履修上の注意	ノートをしっかり取り、積極的に発言すること。		【総合達成度】
教科書	堀栄造著、『フッサールの脱現実化的現実化』、晃洋書房、2006年。		
参考図書	堀栄造著、『フッサールの現象学的還元』、晃洋書房、2003年。		
事前準備学習	事前に教科書を読んでおくこと。		
関連科目	哲学特論 , 哲学概説, 倫理。		
総合評価	定期試験により評価する。評価が60点以上を合格とする。		【総合評価】 点